

「新たなCAS機能に関する検討分科会」第1回 資料

B-CASについて

2018年 12月 17日

(株) ビーエス・コンディショナルアクセスシステムズ

1. B-CASカード

BS・CS・地上 共用カード
3波共用受信機器に同梱

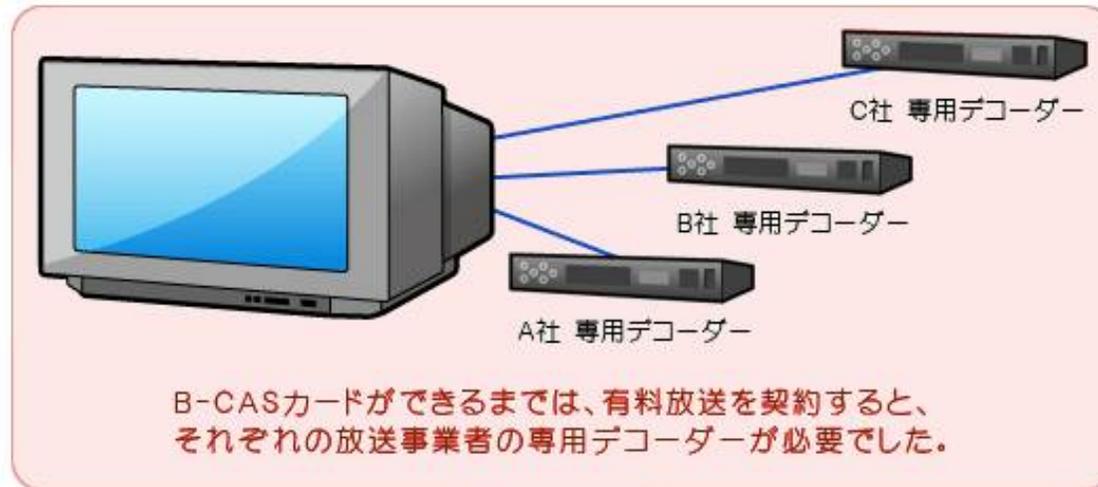
地上デジタル専用カード
地上専用受信機器に同梱



カード裏面



2. 限定受信システム(CAS): その1



B-CASカードを利用することで、
有料放送事業者毎の専用デコーダーが不要になりました。

BSデジタル放送/110度CSデジタル放送
における複数の有料放送事業者が、
1枚のB-CASカードを利用して、それぞれ
独自の有料放送サービスを視聴者に
提供することができる。

2. 限定受信システム(CAS): その2



【3つの役割】

- ① 有料放送契約などをした人の受信機だけが、スクランブルが解けて受信できるようにする
- ② NHK BSの契約メッセージ表示
- ③ 無料放送も含めたコンテンツ保護

3. 会社概要

1. 名称

- ・商号 株式会社 ビーエス・コンディショナルアクセスシステムズ
- ・略称 B-CAS(ビーキャス)

2. 設立

- ・2000年(平成12年)2月22日

3. 資本金

- ・15億円(設立当初10億円)

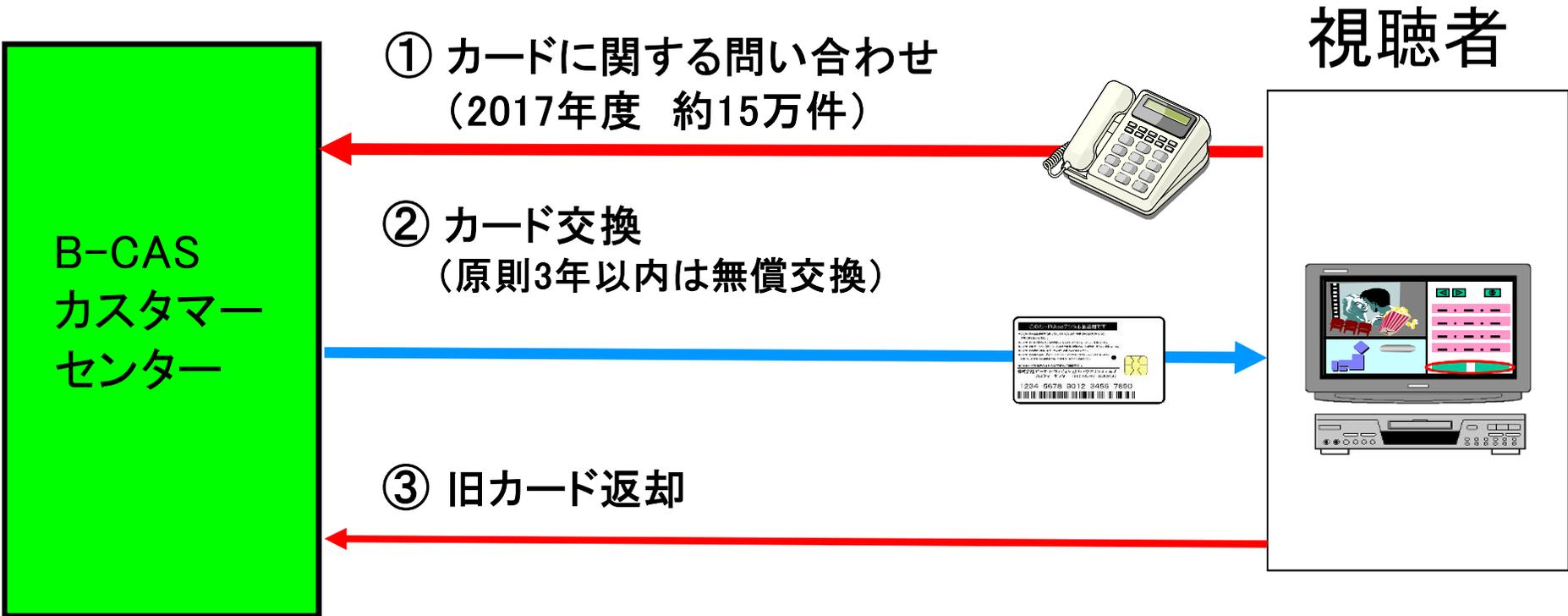
4. カード発行枚数

2017年度 1030万6000枚 (累計 2億5831万枚[2018年3月現在])

5. 株主

日本放送協会、株式会社BS日本、株式会社BS-TBS、株式会社ビーエスフジ、株式会社ビーエス朝日、株式会社BSテレビ東京、株式会社WOWOW、株式会社スター・チャンネル、東芝インフラシステムズ株式会社、パナソニック株式会社、株式会社日立製作所

4. 視聴者対応



5. カード方式の得失

メリット	<ul style="list-style-type: none">・取り外し・交換が容易、<u>不具合</u>がカードやICチップそのもの に起因する場合は、カード交換により簡単・安価に修復可能・有料放送契約などに必要な「カード識別番号」が読み取り易い など使い勝手が良い
デメリット	<ul style="list-style-type: none">・利用者が直接扱えるため、解析され、改ざん・不正使用され易い という指摘もある 実際に攻撃を受けた後に、発生した改ざん事件は後を絶たず (下記参照)、対策には費用がかかる・接触不良などが生じやすいとの指摘も受けている

○過去のB-CASカード改ざん事件の主な摘発例

・2012年6月

改ざんプログラムの提供やカードの改ざん、また改ざんカードをネットオークションで販売するなどした計3人を京都府警が逮捕

・2014年8月

「BLACKCASカード」と称する違法なカードを台湾から日本に販売していたグループを台湾警察が摘発。2人を逮捕

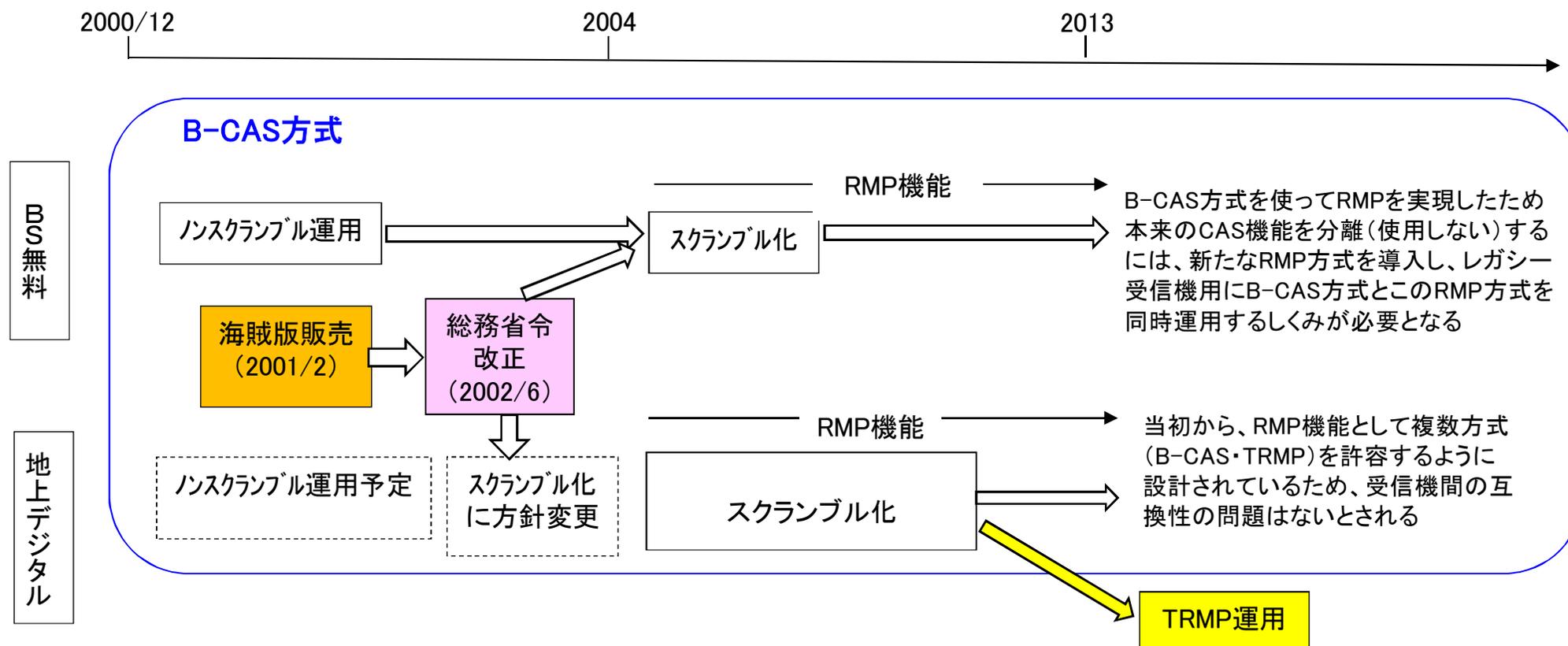
・2016年6月

有料放送を無料で視聴できるようにする不正なプログラムをインターネットで公開した佐賀市の17歳の少年を警視庁などが逮捕

・2017年11月

ネットオークションを通じて改ざんプログラムを販売していた人物を佐賀県警が逮捕

6. 視聴制御とコンテンツ保護機能



◎ BS/CSデジタル有料放送

開始当初からCAS機能が使用され、コンテンツ保護機能 (RMP) も運用されており、RMP機能の分離はできない

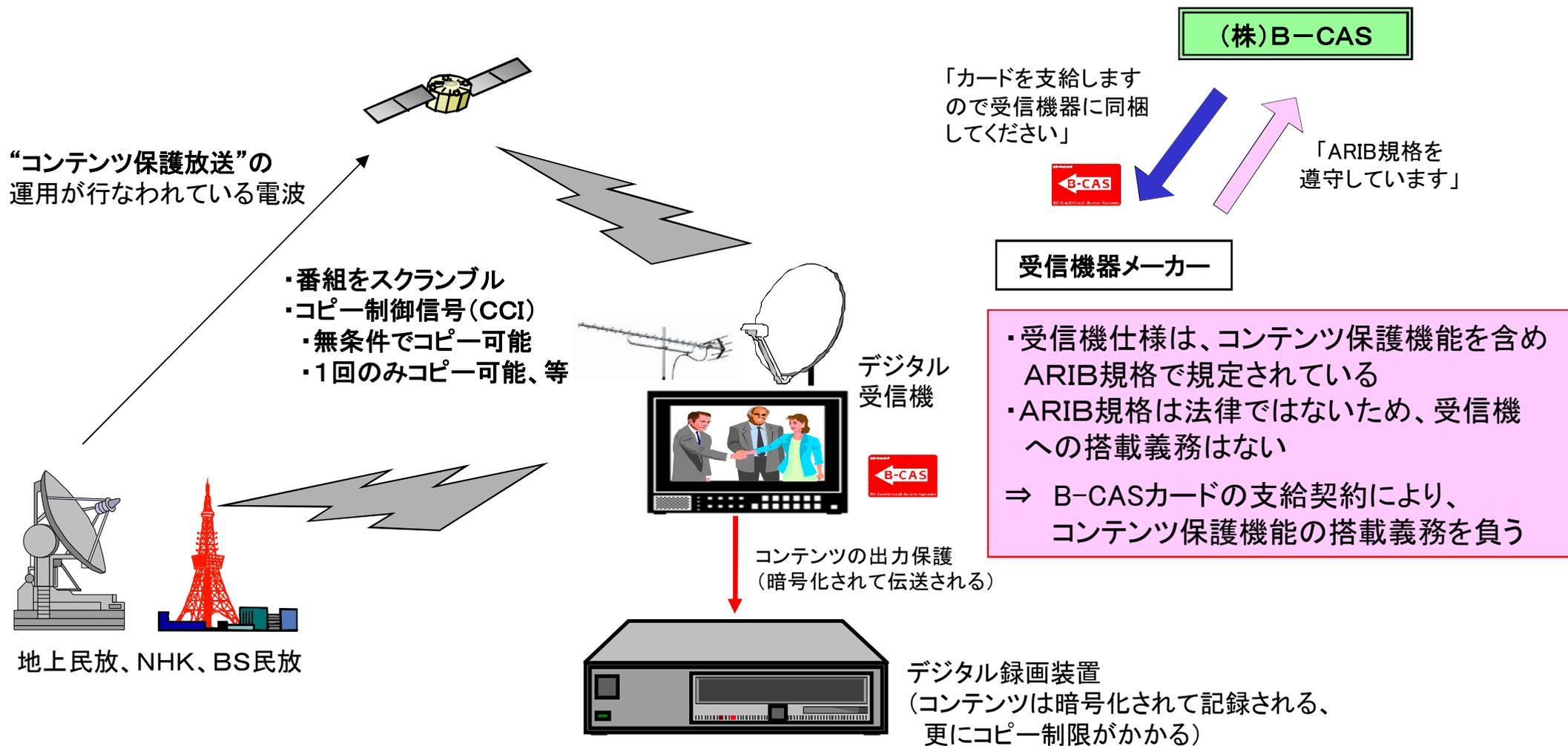
◎ BSデジタル無料放送

開始後に、CAS機能を利用してRMPを運用しており、RMPの分離には別方式の導入以外はない

◎ 地上デジタル放送

RMPを2つの方式で準備、開始当初はCAS機能を利用してRMPを運用し、途中から別方式も導入して併用運用している

7. コンテンツ保護放送の全体イメージ



8. B-CASカードの流通

